

2025 年度

いわて技術フォーラム

年次大会報告書（案）

日 時 2025 年 7 月 5 日（土）13 時 30 分
場 所 プラザおでって

盛岡市中ノ橋通 1-1-10

TEL 019-604-3300

いわて技術フォーラム

次 第

1. 開 会
2. 代表幹事挨拶
3. 会議成立報告
4. 議 長 選 出
5. 議事及び報告
6. 閉 会

2025年度 年次大会 報告及び議案事項

報告及び議案事項 1

2024年度事業報告及び収支決算並びに監査報告について

報告及び議案事項 2

代表幹事及び役員について

報告及び議案事項 3

2025年度事業計画及び収支予算について

以上の議案を提出します。

2025年7月5日

いわて技術フォーラム

代表幹事 阿部 幸樹

2024 年度いわて技術フォーラム事業報告書

〔2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日〕

■ 2024 年度の活動概要

2013 年 7 月の「いわて技術フォーラム」発足から 12 年目となりました令和 6 年は、各研究会の活動、講演会の開催、広報・普及活動など、技術士会岩手県支部との連携のもと、対面（+Web 配信）での研修会など、従来のような活発な活動に近づけるようになってきたものと思っております。

その結果、従来に比べ多くの会員の皆様のご参加が可能となり、充実した活動ができたものと思っております。これもひとえに、会員皆様のご理解・ご協力の賜物と感謝しております。

2016 年度からの新たな取り組みとして実施している「いわて技術士交流会」を 2 回開催しており、新規会員の参加もあったことなどから、技術の研鑽と会員相互のつながりの強化が図られたものと思っています。

また、令和 6 年 11 月 30 日(土)、盛岡会場で対面により開催されました「いわてまるごと科学・情報館」(岩手県主催)には、技術士会岩手県支部と連携し、会員企業様のご協力のもと、「iPad 現場管理 AR 技術の拡張現実体験コーナー／ドローン映像の VR 体験／一定垂直倍率立体地形解析図(CVESmap)で見る防災ハザードマップ」と題しましたパネル展示を実施し、来場者は盛岡会場で約 850 名と、多数のご参加をいただきました。

令和 7 年度も同様に、実行委員会として積極的に参加し、県民の皆様に、技術を通して技術士会の知名度向上をさらに図っていきたいと思います。

このように、対面（+Web 配信）による環境の整備及び開催時期・話題提供の内容を検討した研修会等の取り組みを行ったことにより、以前にも増してより多くの会員の皆様のご参加いただけるようになったものと思っております。

改めて会員皆様に対しまして、感謝申し上げます。

I. 一般事業

1. いわて技術フォーラム活動

1-1 活動

- (1) 役員会の開催（役員会）→詳細はP.6「2.役員会」にて記述

岩手県支部と合同で支部の規則に則り年間 6 回の役員会を計画し、支部活動に関する協議を開催した。

- (2) 年次大会の開催（総務委員会）

岩手県支部及びいわて技術フォーラムの 2023 年度活動、決算報告、2024 年度の活動、予算計画の報告を行った。（2024 年 7 月 6 日）

- (3) いわてまるごと科学・情報館への出展の参加（企画委員会）→ 詳細は別紙「活動報告」にて記述

■ 2024.11.30 於：いわて県民情報交流センター アイーナ
全体 800 名

今年度は協賛団体として昨年度に引き続き（株）タカヤ様と（株）タックエンジニアリング様から出展のご協力をいただきました。

（株）タカヤ様からは iPad を使って現場管理ツールの一つとして活用している AR 技術を拡張現実体験できるコーナーや、リアルな現場の施工過程が見学できるパネル展示等の出展があり、（株）タックエンジニアリング様からは、地上型レーザ計測器による三次元計測のデモンストレーションや、ドローン映像のVR体験、一定垂直倍率立体地形解析図(CVESmap)で見る防災ハザードマップのポスター展示等の出展がありました。

今後も引き続き地域に密着した活動を続け、地域経済・産業の発展、福祉の増進への寄与を続けていきたいと考えています。

- (4) いわて技術士交流会（いわて技術フォーラム）→ 詳細は別紙「活動報告」にて記述
例年 4 回開催されるが、2 回の開催となった。

業務・研究発表（2 名）

■ 第 1 回 2024.5.23 於：ホテルパールシティ盛岡

■ 第 2 回 2024.9.26 於：ホテルパールシティ盛岡

2024 年度活動報告

事業名	実施 月日	実施 場所	事業内容、テーマ等	参加人 数
第 1 回 いわて技術士交流会	2024 5.23	ホテルパール シティ盛岡	① 「根浜海岸の砂浜再生事業の経験から」 ～点と点がつながるとき～ ② 「経営者となった今、私が目指すもの」 ～地域の総合建設会社、世界のコンクリート 補修補強の専門会社～	32 名
第 2 回 いわて技術士交流会	2024 9.26	ホテルパール シティ盛岡	「能登半島地震の被災状況と支援活動の報 告、そして次への備え」	19 名
令和 6 年 いわてまると科学・情報館	2024 11.30	いわて県民 情報交流センター アイーナ 7・8F	技術士会岩手県支部 ① iPad 現場管理 AR 技術の拡張現実体験コ ーナー ② ドローン映像の VR 体験 ③ 一定垂直倍率立体地形解析図 (CVESmap)で見る防災ハザードマップ	全体 850 名

2. 広報及び普及啓発事業

広く社会に技術士制度の普及啓発を図るとともに、技術士活用の促進、CPD 実施の促進及び支援のための情報提供など、技術士活動の活性化を図るための、以下の事業を行った。

(1) 広報

- ① ホームページ，E メールを活用した会員への情報提供，一般社会への PR
- ② 会員名簿の作成，配布（岩手県支部と合同）

(2) 普及啓発

- ① 会員及び協賛企業及び団体の拡大に向けた活動

3. 会員の資質の維持・向上のための CPD 活動

会員の資質の維持・向上を目的として、交流会を開催した。

4. 社会貢献活動

- (1) いわてまると科学・情報館への出展（於：いわて県民情報交流センター
アイーナ）

- | | | |
|--|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ① iPad 現場管理 AR 技術の拡張現実体験コーナー ② ドローン映像の VR 体験 ③ 一定垂直倍率立体地形解析図(CVESmap)で見る
防災ハザードマップ | } | 協賛団体である
(株)タックエンジニアリング様，
(株)タカヤ様によるブース出展 |
|--|---|--|

支部から 2 名参

II. 会議の記録

1. 合同年次大会

公益社団法人日本技術士会東北本部岩手県支部・いわて技術フォーラム
2024 年度合同年次大会

概 要： 報告及び議案事項 1 2023 年度事業報告及び収支決算並びに監査報告について
報告及び議案事項 2 2024 年度事業計画及び収支予算について

議案事項 1、2 とも承認される。

その他意見等； なし

2. 役員会

開催日	役員会	主要議題
2024.5.30	第 1 回役員会	・ 2024 年度第 1 回東北本部役員会報告 ・ 2024 年度東北本部第 1 回 CPD 委員会報告 ・ いわてまるごと科学館について ・ 岩手県支部役員会選任について ・ 合同年次大会の議案承認、懇親会について ・ 各研究会の活動報告、ならびに活動予定
2024.8.6	第 2 回役員会	・ 2024 年度第 2 回東北本部役員会・試験担当者会議および年次大会報告 ・ 秋季講演会について ・ いわてまるごと科学館について ・ 各研究会の活動報告、ならびに活動予定
2024.9.25	第 3 回役員会	・ 2024 年度第 3 回東北本部役員会報告 ・ いわてまるごと科学・情報館について ・ 秋季講演会及び新春講演会について ・ 各研究会の活動報告、活動予定について
2024.11.26	第 4 回役員会	・ 2024 年度第 3 回東北本部役員会報告 ・ いわてまるごと科学・情報館開催報告 ・ 新春講演会について ・ 令和 6 年度倫理研修会について ・ 研究会の活動報告、ならびに活動予定
2025.1.29	第 5 回役員会	・ 2024 年度新春講演会開催報告について ・ 2024 年度第 4 回東北本部役員会報告について ・ 2025 年度事業スケジュールについて ・ 各研究会の活動報告、活動予定について
2025.3.26	第 6 回役員会	・ 2025 年度支部役員改選について ・ 2023 年度合同年次大会に向けた準備について ・ 2025 年度いわて技術フォーラム代表幹事選挙に向けた準備について ・ 各研究会の活動報告、活動予定について

なお、役員会の議事録については、随時、当会ホームページに掲載しております。

III. 会員の動向

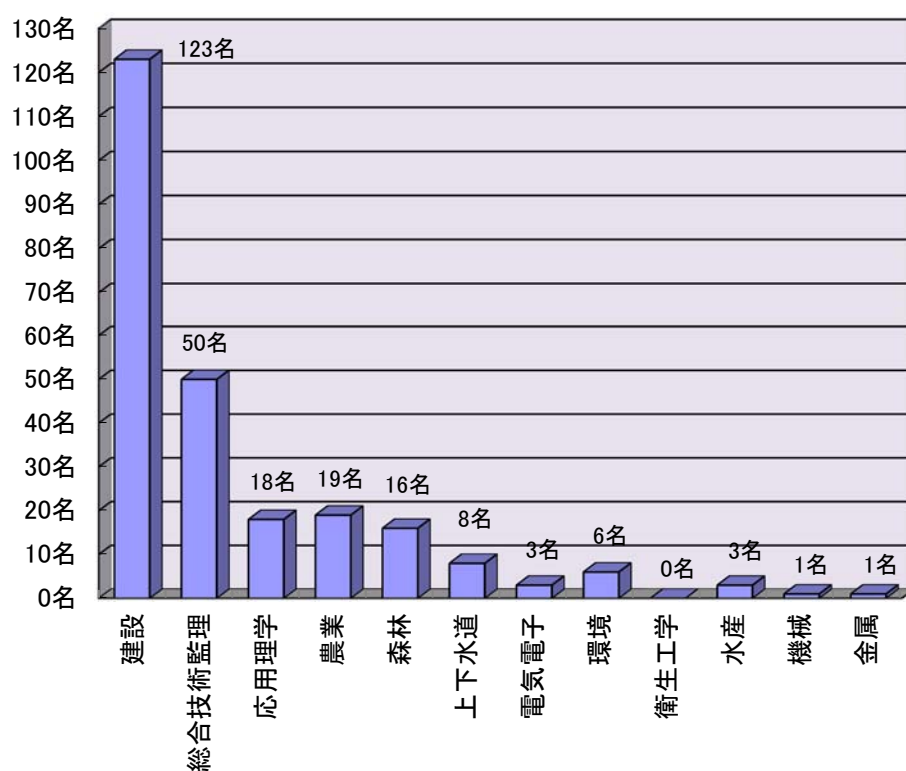
令和7年4月時点の会員の動向及び構成は以下の通りである。

【会 員】178名（実数）：前年度会員数182名

【準 会 員】10名（実数）

下のグラフに示された各部門の人数は複数部門をカウントした数値になっているので実数と整合しない

本部会員+フォーラム会員の部門別状況



いわて技術フォーラム

令和 6 年度収支決算書

(令和 6 年 4月1日から令和 7年 3月31日まで)

【収入の部】

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	増 減	摘 要
会 費	330,000	324,000	6,000	
会 費 未 収 入 金	18,000	12,000	6,000	
総 会 参 加 費	10,000	0	10,000	
各 種 事 業 参 加 費	5,000	0	5,000	
雑 収 入	1,556	43	1,513	
当 期 収 入 計 (A)	364,556	336,043	28,513	
前 期 繰 越 収 支 差 額	175,444	175,444	0	
収 入 合 計 (B)	540,000	511,487	28,513	

【支出の部】

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	増 減	摘 要
総 会 費	90,000	5,000	85,000	年次大会費用
役 員 会 費	50,000	0	50,000	
委員会・研究会活動費	250,000	128,558	121,442	活動費
広 報 ・ 渉 外 費	40,000	16,500	23,500	新年特集号広告
事 務 費	100,000	78,250	21,750	送料、送金手数料、会費納入送金手数料、事務手数料
小 計	530,000	228,308	301,692	
予 備 費	10,000	0	10,000	
当 期 支 出 計 (C)	540,000	228,308	311,692	
当 期 収 支 差 額 (A) - (C)	△ 175,444	107,735	△ 283,179	
次 期 繰 越 収 支 差 額 (B) - (C)	0	283,179	△ 283,179	

監査報告書

令和 7 年 4 月 29 日

いわて技術フォーラム

会長 阿部 幸樹 様

会計幹事

松原 和則 

会計幹事

菅原 隆彦 

いわて技術フォーラム規則第 20 条 2 及び 3 項に基づき、令和 6 年 4 月 1 日から令和 7 年 3 月 31 日までの令和 6 年度の監査を行ったので、その結果について報告する。

1. 監査の方法の概要

会計監査のため、会計に関する書類を閲覧し、計算書類についての照合その他相
当な方法を用いて調査した。

2. 監査結果の意見

収支決算書は、収支の状況を適正に表示しているものと認める。

以上

いわて技術フォーラム 活動報告

令和6年度 第1回 いわて技術士交流会 開催報告書	
日 時	令和6年5月23日（金）発表会 18:00～19:00
場 所	ホテルパールシティ盛岡 3F「欄の間」
参加者	阿部幸樹、川野好宏、下川憲、櫻田和志、糸井健(Web)、赤松久(Web)、村上功、南正昭、番澤悦昭(Web)、遊田勝、澤田貞悦、佐藤佳之、佐々木栄洋、高橋正博、加藤武男、吉田基、黒墨秀行、金濱基人、高橋敏晴、千葉範彦、村木宏彰、利部哲(Web)、菅原常彦、上野栄一(Web)、佐藤充弘、中馬慶子、松原和則、山田龍、本間崇志、照井久、大宮幸司、佐々木直美 計 32 名
業務・研究発表1：「根浜海岸の砂浜再生事業の経験から」 ～点と点がつながるとき～	
発表者	佐藤 佳之 氏（岩手県盛岡広域振興局土木部岩手土木センター）
概 要	(1) 発表の要旨 ・自己紹介と東日本大震災津波で被災した根浜海岸の砂浜再生事業について (2) 自己紹介について ・岩手県入庁後、退職し、岩手県工業技術センターで試験分野を担当し、その後岩手大学博士後期課程社会人入学、東日本大震災を経験後に、再度岩手県に復職。 (3) 根浜海岸の砂浜再生事業について ・震災後、根浜海岸の砂浜 1.3km が津波と地盤沈下で、消失。釜石市から砂浜再生の要請を受け、岩手県が砂浜再生事業に着手。根浜海岸復興養浜技術検討会を立ち上げる。 ・技術検討会で、海浜安定性シミュレーションを実施。養浜延長 450m、防砂突堤 1 基、養浜材料 約 4.5 万 m³、全体事業費 10 億円(復興交付金)、工事期間 H30～R2 年度 (3) 最後に ・令和3年7月に海開きを開催。仕事をつないでくれた方々、そして地元皆様のご理解に感謝。
業務・研究発表2：「経営者となった今、私が目指すもの」 ～地域の総合建設会社、世界のコンクリート補修補強の専門会社～	
発表者	佐々木 栄洋 氏（株式会社 栄組）
概 要	(1) 発表の要旨 ・自己紹介と建設会社に入社しコンクリート補修補強の専門会社になるまで。 (2) 地場の建設会社が生き残るためには ・ものごとを作るだけでは、次が望めない。大学での経験を活かし、他大学との共同研究。 ・技術研究会を立ち上げ、海外(ODA)事業、国内外に代理店設立。 ・海外で活用している独自技術：圧力調整注入工法(SARIS)、相手が望んでいるものを提供する。 ・橋梁の長寿命化施工マネジメントシステム(SIMMS)：調査・設計、施工、メンテナンスまでを一元化・体系化(全て自社施工)し、施工のマネジメントシステムを構築する。 ・事業実績：ネクスコは、1年先まで仕事が入っている。補修のスペックを数値化し、見える化。 ・5年毎の点検は意味がない。大丈夫なものは省くこと。 ・JRは3年間、軌道スラブ補修(東北・八戸新幹線)の実績を積み上げた。 ・建設コンサルタントからの委託：ダムの監査廊、ジョイントからの漏水の補修実績有り。 ・海外展開：ブラジル、インド、アメリカ、インドネシアなどに現地法人(又はパートナー)を設立。 (5) 今後の展開について ・ひび割れ注入：AIの導入、ポンプユニットの開発など。 ・ドローンによる含侵材注入工法、コンクリートの表面緑化技術(観光に役立つ)の開発など。

《川野 記》

令和6年度 第2回 いわて技術士交流会 開催報告書	
日 時	令和6年9月26日(木) 発表会 18:00~19:00
場 所	ホテルパールシティ盛岡 3F「欄の間」
参加者	阿部幸樹、川野好宏、永田裕一(web)、番澤悦昭、村木宏彰、山田光雄、寺井良夫、佐藤俊孝、高橋正博、高橋敏晴(web)、大宮幸司、小山幸雄、本間崇志(web)、高島美幸、黒墨秀行、佐々木直美、古山裕康(web)、吉田基、南正昭 計 19 名
業務・研究発表：「能登半島地震の被災状況と支援活動の報告、そして次への備え」	
発表者	寺井 良夫氏 ((株) 邑計画事務所取締役顧問、(一社)SAVE IWATE 理事長)
概 要	(1) 発表の要旨 ・能登半島地震の被災状況について ・能登支援のベース基地(ボラキャンすず)について ・能登の支援について ・次への備えについて (2) 能登半島地震の被災状況について ・地震の影響により、道路の路盤の損傷が多数発生している。半島沿いの3路線の内、東側の国道249号だけ通行可能で渋滞が発生したが、能越自動車道の応急復旧が進み片側1車線の通行が可能。建物被害は古い家が殆ど潰れ、また液状化で道路のマンホールが浮き上がる。 ・避難所はビニールハウスなども使用、沢水を利用し、携帯発電機がフル活動。 ・一番苦労したのは眠れなかったこと。(寒い、背中が痛い) ・孤立した集落まるごと120人の2次避難。(避難を呼びかけたSさんの必死の説得による) ・仮設トイレ、トレーラーハウス、キャンピングカーは災害時には備蓄しておくべき。 (3) 能登支援のベース基地(ボラキャンすず)について ・珠洲市鉢ヶ崎オートキャンプ場に宿泊滞在拠点(ベース基地)「ボラキャンすず」を設置。 ・民間企業や岩手県からテントを提供、キャンプ場には多い時には100人滞在。(平日50人)オープンから宿泊利用者は延べ6,006人。(オープンから9/30まで) (4) 能登支援について ・能登支援は、被災住家の跡片付け、災害廃棄物のリサイクル(7月に入って初めて解体作業、解体したものを再利用)、また、能登のお宝活用プロジェクト(輪島塗や漆器を買い上げ、その資金を還元：SAVE IWATE)を実施。 ・その他、住宅再建支援(家財の一時保管)、心のケア、地域の祭り支援、能登の物産支援、庭師ボランティアとオープンガーデン、農業ボランティア、手しごと支援、クリーンビーチ、井戸掘りボランティア、お墓の修復ボランティアなど生活に密着したものへの支援活動。 (5) 次への備えについて ・復旧・復興が進んできた矢先に、令和6年9月能登半島豪雨に見舞われた。 ・8/27盛岡で発生した線状降水帯により、米内・東山などで住宅が床上床下浸水。 岩手・盛岡では次への備えが果たして十分か？ ・技術士は災害に対応して何ができる？何をすべき？ 技術士の地域貢献として、①被害状況の情報収集と分析、②技術を必要とする現場での支援活動、③復旧復興の技術的な提案など。 ・これから、岩手の災害に備え、技術士会としての合意形成は必要。 (6) 質疑応答 ・解体作業の遅れた原因：住宅被害判定の遅れ、現場の混乱、応援者が満杯、11月に仮設住宅完成 ・自分は4回能登へ：復興が遅い、人がいない、水道・電気が不通、ビルがそのまま、港の隆起など ・宿泊拠点、お宝プロジェクト：珠洲市役所に掛合い葬祭場を拠点に、お宝を能登の為に譲りうける。 また、解体しているものを有料で引取ってもらい、能登へ還元。 ・技術士会として：技術士会が先頭に立って行動することが大切。技術士も勤めている会社から離れて活動できれば良いが。

《川野 記》

報告及び議案事項 2

新・旧役員一覧表(案)

※太字:変更あり

(2025.06.02)

氏名の◎は本部会員、Fはフォーラム会員		旧 (2023～24年度)	新 (2025～26年度)	
代表幹事		◎ 阿部 幸樹	◎ 阿部 幸樹	
委員長	総務委員長	◎ 川野 好宏	◎ 佐藤 充弘	
	企画委員長	◎ 川野 好宏	◎ 佐藤 充弘	
	広報委員長	◎ 利部 哲	◎ 利部 哲	
	技術委員長	◎ 菅原 常彦	◎ 本間 崇志	
研究会代表	道路研究会	◎ 熊谷 利明	◎ 熊谷 利明	
	河川研究会	◎ 高橋 正博	◎ 高橋 正博	
	鉄道研究会	◎ 澤田 貞悦	—	休会 (2025,1,29)
	都市研究会	◎ 佐藤 充弘	F 下川 憲	
	施工研究会	◎ 平井 公康	—	廃会 (2025,1,29)
	農業研究会	◎ 佐藤 俊孝	◎ 佐藤 俊孝	
	機械電気研究会	◎ 武田 洋一	◎ 武田 洋一	
	森林水産研究会	◎ 小原 正明	◎ 吉田 宏	
	応用理学研究会	◎ 菅原 弘	◎ 菅原 弘	
	鋼構造コンクリート研究会	◎ 菅原 常彦	◎ 菅原 常彦	
	建設ICT生産システム研究会	◎ 村上 功	◎ 村上 功	オブザーバー
副委員長	総務副委員長	◎ 加藤 修	◎ 山田 龍	
	企画副委員長	◎ 永田 裕一	◎ 永田 裕一	
	広報副委員長	◎ 高橋 敏晴	◎ 高橋 敏晴	
	技術副委員長	◎ 本間 崇志	◎ 熊谷 利明	
幹事			◎ 松原 和則	
会 計 幹 事		◎ 菅原 隆彦	◎ 古山 裕康	
		◎ 松原 和則	◎ 川野 好宏	

2025 年度いわて技術フォーラム事業計画書

〔2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日〕

■ 2025 年度の活動にあたって

2025 年度は、技術士会岩手県支部との連携した取組を基本としつつ、県内技術士の一体となった活動の場として機能することを意識し、会員の皆様にご参加していただける活動を展開していきます。

具体的には、「いわて技術士交流会」については、4 回／年の開催を目指すとともに、岩手県主催の「いわてまると科学・情報館 2025」、県支部主催の「秋季講演会・新春講演会」及び「各研究会」など技術士会岩手県支部と協働しながら活動していきます。

これらの活動により、会員の技術力の向上と会員相互の理解・連携の強化を図り、あわせて、技術士活動についての普及啓発に努めてまいります。

また、活動を実施する際には、会員各位のご理解とご協力をお願いすることになるかと存じますが、何卒宜しくお願い申し上げます。

2025 年度活動計画（案）

事業名	実施 予定 月	実施 場所	事業内容、テーマ等	参加人数
第 1 回 いわて技術士交流会	2025 5.22	ホテルパール シティ盛岡	『岩手県における「流域治水」の取り組みについて』 ～「流域治水」の考え方、背景、岩手県における取組 状況など～	23 名
第 2 回 いわて技術士交流会	2025 7	ホテルパール シティ盛岡	未 定	- 名
第 3 回 いわて技術士交流会	2025 9	ホテルパール シティ盛岡	未 定	- 名
第 4 回 いわて技術士交流会	2025 11	ホテルパール シティ盛岡	未 定	- 名
2025 年度 いわてまると科学館	2025 未定	いわて県民 情報交流センター アイナ	県主催 「いわてまると科学・情報館 2025」 技術士会岩手県支部と協働で体験型の技術出 展予定	- 名

I. 一般事業いわて技術士フォーラム

(令和 7年 4月 1日から令和 8年 3月31日まで)

【収入の部】

(単位：円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	摘 要
会 費	330,000	330,000	0	会員55名分
会 費 未 収 入 金	0	18,000	△ 18,000	
総 会 参 加 費	10,000	10,000	0	
各 種 事 業 参 加 費	5,000	5,000	0	技術講演会・新年交歓会等
雑 収 入	1,821	1,556	265	受取利息等
当 期 収 入 合 計	346,821	364,556	△ 17,735	
前 期 繰 越 収 支 差 額	283,179	175,444	107,735	
合 計	630,000	540,000	90,000	

【支出の部】

(単位：円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	摘 要
総 会 費	100,000	90,000	10,000	会場費、資料コピー代他
役 員 会 費	60,000	50,000	10,000	会場費、資料コピー代他
委員会・研究会活動費	300,000	250,000	50,000	活動費
広 報 ・ 渉 外 費	40,000	40,000	0	広告費
事 務 費	120,000	100,000	20,000	送料、送金手数料、事務手数料他
小 計	620,000	530,000	90,000	
予 備 費	10,000	10,000	0	
合 計	630,000	540,000	90,000	